

2020 年第 67 回応用物理学会春季学術講演会シンポジウム (technical) T29

## 非晶質材料の動的現象とデバイス応用の現状と展望

上智大学四谷キャンパス

2020 年 3 月 13 日(金) 13:30~18:00(予定)

非晶質の特徴として原子変位の自由度が大きいことが挙げられますが、この特徴を利用して相変化メモリ材料や電池関連材料などが開発されており、その進展は近年著しくなりつつあります。このような非晶質の動的現象(ダイナミクス)についての研究は、さらなる物性の理解と新しいデバイスの創造のために重要と考えられます。

本シンポジウムでは、非晶質および関連材料のダイナミクスとデバイス応用に関する現状を整理し将来を展望するため、世界的な研究を精力的に進められている方々を産官学よりお招きし、最新の研究成果をご紹介します。当分野のさらなる発展の機会とするべく、活発な意見交換の場となれば幸いです。

招待講演者(敬称略、五十音順)/講演題目(予定)

後藤民浩(群馬大)

Ge<sub>2</sub>Sb<sub>2</sub>Te<sub>5</sub> 相変化薄膜のギャップ内準位とキャリア特性

齊藤雄太(産総研)

相変化材料の材料設計指針とテルライド材料の新しい展開

須藤祐司(東北大)

相変化メモリ(PCRAM)の省エネルギー化に向けた材料開発

中岡俊裕(上智大)

GeSbTe 薄膜における Ag の電気化学反応—ナノ構造形成から応用まで—  
林晃敏(予定)(大阪府大)

全固体電池への応用に向けた非晶質固体電解質の進展

山内英郎(予定)(日本電気硝子(株))

結晶化ガラスを用いた全固体 Na イオン二次電池

◎ 本シンポジウムでは一般講演も募集しております。

世話人 吉田憲充(岐阜大、代表)、梶原浩一(首都大)、斎藤 全(愛媛大)